



## 第1回入学式告辞 — 抜萃

高知医科大学 初代学長 故 平木 潔

私は、昭和49年8月に高知医科大学の創設準備室長を命ぜられ先ず最初に考えたことは、人間味豊かなよき医師づくりと、地域医療に密着した学風づくりの二つの点をおくことでありました。即ち科学文明の驚くべき発展を遂げつつあります昨今、医学医療においてもとかく物質面が重視され精神面が疎かにされがちに見受けられることは誠に残念であります。もちろん私達医学を学ぶ者は科学者ではありますが、科学者である前にまず人間であり市民であることを思い、専門職として人間の、そして生命の尊厳を守る重大な義務と責任を負っていることを自覚する必要があります。

なお、科学者であるからには一切の非合理主義や迷信を排し、真理を守り追求する決意がなければなりません。しかし、科学によって知り得る能力には限界があることを率直に認め科学万能主義を排除し大自然の摂理、これを神と言ひ仏と言おうとも、とに角、謙虚な気持ちを常に保持すべきであると思います。この点を勘案して高知医科大学の創設に当っては私がかねてから好んで座右の銘としている『真理の追求』と『敬天愛人』の両者を常時忘れることのないようにしたいと考えています。

特に、敬天愛人という言葉は、西郷隆盛が好んで用いたことは御承知のことと存じますが、その意味するところを十分に味わっていただきたいと思います。

(昭和53年4月17日高知医科大学第1回入学式における初代学長 平木潔先生の告辞抜萃。  
高知医科大学十年史より。印刷文字は小島研介がリタイプしています。)